

アカシア探検隊

「広島平和研究所侵入の巻」

甲.. 最近「平和」について考えた事あるか?

乙.. はあ?(なんじゃ、いきなり) 麻雀の「平和」ならよく「どーしょーかー」って悩んでますけど。

甲.. …… 去年の9・11からこつち、これまでとは違った「平和」についての考え方が必要になってきたとは思わんか?

乙.. はあ……

甲.. そこで、今回は広島平和研究所教授の水本和実氏にインタビューじゃ。

乙.. 明石さん、今頃どうしとってんじやろうか? ……

ということで、今回は65回卒業の水本先輩の登場です。

水本先輩は東京大学法学部第3類卒業後、朝日新聞政治部、社会部、ロサンゼルス支局長として活躍されました。そして米國タフツ大学フレッチャー法律外交大学院修士課程修了後、広島大学大学院を経て、98年から広島平和研究所助教授。主な論文に「21世紀における核問題と被爆体験(平和研究26号)」等があります。

乙.. お忙しいところ、すみません。まず私らパンピー(一般人)に、広島平和研究所とはどんなところか、教えていただけませんか?

水.. いきなりきたね。広島平和研究所は、広島市立大学の附置機関として、1998年(平成10年)4月1日に設立されました。世界初の核兵器による被爆を体験した都市としての歴史を背景に、学術研究活動を通じて、核兵器の廃絶に向けての役割を担うとともに、地球社会が直面する諸問題の解決にも寄与し、世界平和の創造・維持と地域社会の発展に貢献する国際的な平和研究機関を目指しています。また、国内外における平和研究機関と積極的に連携してネットワークを構築することにより、平和研究の発展に寄与しています。それから、学術研究の成果を社会に公開します。講演会、公開講座、シンポジウム、出版活動などを通じて、研究成果を積極的に還元しています。と、まあ真面目に説明するよ、こんなもんじゃね。

乙.. 平和研究って、一体どんなことするんですか?

水.. 平和研究者と呼ばれる人の多くは、「平和」の定義から入って行きます。ですけど僕は違います。現実的に「平和」が損なわれた状態を出発点として、いかに「平和」な状態を回復し、どのようにそれを維持してゆくかという事に関心がありません。

甲.. 最近で言えば、9・11テロからの一連の世界情勢がありますが、これについてはいかがでしょうか?

水.. まず最近のアメリカについて。最近、ますます一国主義の傾向が強めていると言われます。冷戦が終結し、単に世界唯一の超大国になったから、という現象ではなく、あらゆる事を国際社会にはからんで自国の利益に基づいて単独で決定しようとしている。今のアメリカは、クリントン政権時代に我慢していたタカ派的な人達が国を動かしている、ブッシュ大統領はそれにうまく乗っているという構図があります。そして「アメリカの安全こそが世界の安全だ」、「アメリカのやる事はすべて正義だ」という意識をますます強めています。まあ唯一の超大国であることが背景にはありますが、いずれにしても、危険な論理ですよ。

乙.. テロ撲滅という旗印の下でのアフガン空爆でもそれはうかがえますよね。

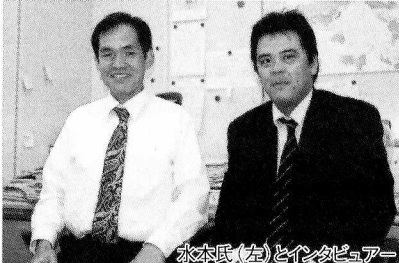
水.. そうです。使える手段は何でも使い、あらゆる理屈を動員してそれを正当化する。また、自分たちがテロリストと断定した相手に対しては、地球の裏側まで出かけて行ってでも探し出し、自分たちの手で裁こうとする。はつきり言って国際法などお構いなしです。

甲.. 広島平和研究所で平和研究をなさっているわけですが、核問題についてはどのような視点をお持ちですか?

水.. ヒロシマは核問題を考える原点だと思います。でも、原点に在るだけでは問題の解決にはつながらない。言い換えると、被爆体験を語るだけで、或いは聞くだけで止まってしまつてはいけません。ある新聞のインタビュで「ヒロシマで被爆体験を聞くなど原点に足を置いただけで、思考停止してはいけません」と言ったんです。掲載後に、被爆者運動の活動家から相当非難を浴びるかなと覚悟しましたけど、それでもなかつた。広島平和運動もそうろろ、被爆者救済から、グローバルな問題へと視野を広げ、排他的な運動ではなく、包容力のある行動へと切り替える必要があると思います。

乙.. 広島出身の水本さんがそういう発言をなさるといふのは非常に大きな意味がありますね。話は変わりますが、なぜ現職に就かれたのですか?

水.. 16年ほど記者生活をしていました。ですが、いずれは自分の専門を身につけて、定年になったら専門家のはしくれで生きてゆこうと思つてました。ところが、新聞社というところは、持ち場が変わるとそのたびに一から勉強で、少し分かったと思つたらまた別の部署へ。しかも、会社の言うことを聞いてくれない。このままでは、何も身につかないな、と思い、思い切つて会社の選定年制度を利用したんです。その後、広島大学の大学院で勉強していた時に、平和研究所が開設されることになり、研究者を探しているから応募してみないかという話があつたんです。核や平和問題にはもともと関心があつたので、応募してみました。研究所側は当初、研究員候補としてビッグネームばかりのリストを作つていたそうですが、初代所長の明石さんが「大物はいらぬ。腰の軽い人」と言われたそうなんです。腰が軽いといえ



水本和実(左)とインタビュー

ば記者ですよ。それで採用していただろうです。

乙.. 現役の生徒諸君にメッセージをお願いします。

水.. なんですけどもやってみよう、という気持ちも持ってほしいです。でも、僕が高校生だったときは、野球部に属していましたが、それ以外に合唱、管弦楽、そしてユネスコ班にも首を突っ込んでました。朝早く学校に行つて、トランペット吹いて、歌を歌つて、

